

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	児童支援ベガサス・児童支援ベガサス個別療育プログラム教室			
○保護者評価実施期間	2024年12月16日		～	2024年12月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数)	20
○従業者評価実施期間	2024年12月16日		～	2024年12月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数)	18
○事業者向け自己評価表作成日	2025年1月31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童一人ひとりに十分な支援を提供できる体制が整っており、衛生管理や環境整備を徹底し、子どもたちが安心して過ごせる空間を維持している。	子ども一人ひとりに十分な支援が提供できるよう、利用者の特性や支援ニーズに応じた適切な人員配置を行っているとともに職員間で情報共有を密に行い、業務の効率化を図っている。また定期的な清掃・消毒を徹底し、感染症対策を強化しています。	定期的な研修や勉強会を実施し、発達支援の知識や技術を向上させる。
2	子どもと保護者のニーズを的確に把握し、客観的な分析に基づいた支援計画を作成している。	保護者や関係機関と連携しながら、子どもの成長や変化を的確に把握し、適切な支援計画を作成に取り組んでいる。また定期的な見直しとフィードバックを行い、計画が実態に即しているかを確認している。	個別支援計画のさらなる充実 より詳細なアセスメントを行い、子どもの特性や課題を的確に把握する。 保護者との面談機会を増やし、ニーズに沿った計画を作成する。
3	支援の質が高く、子どもたちが事業所を楽しみにしている。	子どもの興味や特性に合わせた活動プログラムを提供し、意欲的に取り組めるような支援を心がけている。 職員が子どもたちと信頼関係を築くことを大切に、安心感を持って通える環境作りを行っている。	子どもがより楽しめるプログラムの充実 季節ごとのイベントや外出活動を積極的に取り入れ、子どもが楽しめる機会を増やす。 子ども自身が活動を選べる場を提供し、自己決定の力を育む。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流、その他地域の子どもたちと活動する機会がない	・地域の放課後児童クラブや児童館との連携体制が確立されていない。 ・交流活動の意義や必要性について、職員間の共通認識が十分でない。	「スポーツ交流会」や「ものづくりワークショップ」などを企画し、地域の放課後児童クラブや児童館と連携し、交流活動の場を設ける取り組みをする。
2	家族に対する家族支援プログラム（ペアレントトレーニング等）や研修が行われていない	家族向けの支援プログラムの必要性を認識しているが、実施のためのリソースが不足している。 ペアレントトレーニング等を実施するための専門的な知識を持つ職員が少ない。 家族の参加しやすい環境づくりが十分に整っていない。	外部講師を招く、または職員が研修を受けて専門知識を習得し、ペアレントトレーニングの導入に向けた準備を行う。
3	地域の児童発達支援センターとの連携やスーパーバイズ・助言を受ける機会がない	児童発達支援センターとの連携方法が確立されていない。 スーパーバイズや助言を受けるための具体的な取り決めがない。 事業所として、職員の専門性向上のための外部支援活用の意識が低い。	定期的な情報交換の場を設け、児童発達支援センターとの連携を強化する。